

ERIC 通信 第 15 号

2003 年 4 月 20 日発行

走向未来プロジェクトを始動！

事務局長 角田 尚子

いつものことながら、ERIC の成長には目を見張る。3 月の TEST 主催研修の場で、ファシリテーター・コミュニティの共通の課題として「参加の文化」の推進という新たな目標を確認したばかりだということに、それもすごいと思うのに、矢継早に、もう次の動きである。目が離せない。

その名も「走向未来プロジェクト」。「フューチャーサーチ」を訳した中国語名だ。
(運営委員の王さんに、感謝!) ERIC の運営会議は、ERIC のこれからを探る走向未来型会議へと進化する。そして、その進化を確実にものとするために、運営会議は、プロジェクトとして独立する。

プロジェクトの使命は、「ERIC と参加の文化のこれからを探り、実現に向けてファシリテートする」こと。
プロジェクトのエンジンは、事務局メンバー一人、ファシリテーター一人、そして遠距離運営委員を含め運営委員一人で構成される担当者をメインとすること。

プロジェクトのエネルギー源は、「運営会議 (f2f)」Face to Face、「メールングリスト (e2e)」E-mail to E-mail、「ワークショップ・ワークショップ (i4i)」Idea for Idea などのフォーマルなツールから、ささやき系、つぶやき系コミュニケーション、根回し、ネゴシエーション、おいしいものを一緒に食べる、ノミネーションなどのインフォーマルなものまで多彩であること。

プロジェクトの予算は、幸いにも、ない。消化のための労力が不要だということだ。

知恵と力と、I と愛とアイデアの持ちよりが原則だ。

しかし、すでに、大きな財産はある。「走向未来」という未来に向かって投影された道標がそれだ。そんなひとつの言葉を共に持つことができていること、そして、その言葉が現実になっていくこと。見届けたいでしょ? あなたも?

あなたの参加で、変わって、進化して、進んでいくんだよ、このコミュニティは!

■消費税課税に関する ERIC の今後の方針についてのお知らせ

これまで ERIC では、テキストやその他リソースに対し、消費税を加算して提供していました。

しかし、ERIC の活動は、より豊かな未来を実現するための人材を育成することであり、そのためのプログラムやテキストは、「消費」の対象に当たらないのではないかと考えています。

現在、ERIC 運営会議で、税制についての調査や ERIC の今後の方針を検討しておりますが、*2003 年の春より試験的に、ERIC のテキストやその他リソースについては、消費税は加算せずに提供をいたします。

また、ERIC のテキストやプログラムのお申し込みをいただいた方々をこれまでどおり「会員」と位置づけ、ERIC のサービスは「会員」のみを対象とすることとします。今後もこれらの方針について検討を進め、メールマガジン等でお知らせします。

(※) 2003 年度 4 月を準備移行期間とし、5 月より導入します。

ERIC は、NPO の活動のあり方やそれを取り巻く社会的な制度・状況についても、学び、問い続ける立場に立ち、みなさまとともに考えていきます。より多くの人々と共有するために教材または情報素材として、レッスンバンクなどでの発表も考えています。ぜひ、情報やご意見をお寄せください。

国際理解教育で扱いたい6本の柱、それが現在 ERIC のファシリテーター養成講座 6 回の各テーマ。国際理解、持続可能な社会・開発、環境(PLT)、人権、対立、教育力です。02 年度は「グローバルな社会」「地域社会」「身近な社会」の3つのステップで構成し、それぞれの回のテーマから平和への道筋を探りました。各回の報告は ERIC ホームページやレッスンバンク 11 号、12 号に収録する予定なので、ここでは後半の研修の中から見えてきたファシリテーターのスキル育成の課題について報告します。

◆ 2002 年度の取り組みから

ERIC の研修では、いつも新たなチャレンジと発見があります。そのようなチャレンジや発見に至ることができるかどうかは、プログラム作成、実施、ふりかえりの全ての段階にかかっています。研修で重要なポイントはたくさんありますが、特に重点が当てられたことをあげてみます。

■ 安心感のある場づくり

■ 参加者のニーズの把握

■ プログラム立案時の願い、仮説:何を参加者と共有し、いっしょに考えたいか、そのためにどんな仮説を提示できるか。

■ 柔軟な対応

そのような研修が可能になるためには、以上を具体的に実施していくことが必要です。「民主的スキル」を手がかりに考えてみたいと思います。

◆ ファシリテーターの課題: 民主的スキルの実践、トレーニング

参加型とは「民主的スキルの実践であり、トレーニングである」というのは、6月に実施したグローバルセミナーで確認されたことです。民主的スキルは、多様な背景を持った人が共に生きていくためのスキル全般を指します。そして、ファシリテーターとはその実践者であり、指導できる人という位置づけです。ERIC では民主的スキルを次のように構造化しています。

- 「わたし」: 自己理解、自尊感情、自己主張
- 「あなた」: 相互理解、コミュニケーション、傾聴
- 「みんな」: 共通理解、協力、社会的提言

ファシリテーター一人ひとりの個性はさまざまですが、参加型のファシリテーターとして共通に学びあい、伸ばしあっていくことができるスキルは何かということ、全国各地から参加して下さったファシリテーターと共有することができました。各回の研修では、内容とともにファシリテーターとしてのスキルのふりかえりも行いますが、特に「TEST 教育力向上講座」では、「参加型のファシリテーターとは何か」ということを徹底的に考えた3日間でした。

たくさんの具体的なスキルがあげられましたが、ここで

は ERIC で今磨き合おうとし、共通の課題であると考え、深めたものをあげてみたいと思います。

問いを発しあい、受け止めあうコミュニティの育成

疑問をもち、問いを発しあうことは、一つのスキルです。しかし、日常の中で、相手を煩わせないよう、煩わされないようにすることを心がけ、問いを発しないことが自分と周囲の関係性を保つことだという認識があったように思います。

逆に参加型ファシリテーターは、疑問を出し合い、問いを発しあうことで関係性を創り、共通の課題解決に向けて学びあうコミュニティを創ろうと提案しています。「対立から学ぼう」では「未来型のコミュニケーション」をめざして、対立を扱いにくい日本社会の分析を、自分自身の葛藤を見つめ、問い直すことから始めました。「TEST 教育力向上講座」では相手をファシリテートする「鍵となる質問は何か」を意識しながら問いを発しあいました。

問う力も、問いを受け止める力もスキルであり、「柔軟性」が必要です。そして、それらは抽象的なものではなくスキルである以上、繰り返し実践することで、具体的に身につけることが可能です。参加型の研修が分析の枠組みを使った学びあいや、スキルトレーニングを取り入れるのは、研修の場自体が民主的に互いのスキルを伸ばしあい、高めあう場であると認識されているからだと思います。

◆ ファシリテーターのネクストステップに向けて

構造はつねに新しい視点によってチャレンジされます。だからこそわたしたちは学び続けなくてはならないのであり、新たな課題に向き合う中で、ネクスト・ステップへと向かうことができます。「柔軟性」が問われます。だからファシリテーターの道のりは常にチャレンジングでおもしろい。

2003 年度の研修は問いを発しあい、学びあう参加の文化が一層広まっていくことを願って「国際理解 as Learning Community～学び続けるコミュニティの創造」としました。次の研修ではどんな発見があり、どんな課題が見えてくるのでしょうか。

参加者による発表風景)



ERIC が都立竹台高校の2年生選択科目「国際理解」を市民講師として担当して今年度で4年めになります。2002年度は「学校と市民講師の協働」をプロジェクト目標として、それぞれの長所を活かした参加型の授業づくりに取り組みました。

■カリキュラム

年間目標として「現代社会で起こっていることに関心を持ち、自分が大切だと思っているテーマについて学び、人と共有しながら、主体的に関わってゆける知識、スキル、態度を伸ばす」とし、1学期：「国」って何？と改めて考える、2学期：国を越えた地球規模の課題、3学期：自分が課題だと考えていることにどう関わっていくかを考えました。協働の良さで、学校行事や学校のリソースを生かす視点が得られ、様々な機会をカリキュラムに生かしながら進めることができました。

■スキル目標の設定、自己評価の有効性

2002年度は前年以上に、生徒が「聴く姿勢」など自分のスキルを伸ばすことを意識してできるよう時間を割き、工夫しました。年間で伸ばしたいスキルの総体を模造紙に書いて掲示し、その日使ったスキルをチェックしたり、学期ごとに自分のスキル目標を設定し自己評価する、一つのテーマを『12のものの見方・考え方』の分析の手法をとことんを使ってみる回を設けるなどです。その結果、年度末のふりかえりで、「授業で得たもの」の中に、「世界の状況の理解」や「世界に対する視野の広がり」と同じぐらい、「考える」「自分の意見を持つ・話す」「人の話を聞く力」をあげる生徒がいて、スキルの意識化が効力感につながったらしいことがわかりました。2002年度の実施内容はLESSONバンクに収録しています。1学期分 No.11-15、2・3学期分 No.12-31

ERICが進める「まちづくり」その①

こんなことにも取り組んでいます！

事務局 渡辺

住民参加で行う公園の活用推進事業

(東京都足立区からの委託調査事業)

ERIC が関わる足立区の調査事業「公園の管理運営に関する調査」では、2000年度より、区全体の公園活用の推進を区民主体で行うことを目指した取り組みを行っています。「参加型」で行うことを基本とし、ワークショップや実践的な活動などを通して、公園に対する夢や現状改善に対する意見を、調査の計画・実施・評価に反映かたちで、区民と行政がともに学びあいながら進めています。

2002年度は、公園活用に関係する区民団体が参加し主体となる「これからの公園活用を話し合う会」の中で、2回のワークショップと公園での活用実践「公園まるごとおもちゃ箱」を開催し、公園活用をすすめるための推進体制づくりと、公園活用の課題を検討しました。

取り組みの方向性の多くを区民の方々の意向や動機によっていることもあり、調査はなかなか一筋縄では進みませんが、さまざまな発見があり、区民の方々のエンパワーメントにはつながっていることは確かです。

「公園まるごとおもちゃ箱」の様子

参加来園者数
580名以上



参加したスタッフ数
約50名

木に綱をはった綱渡りや目隠して綱をつたう手探り迷路、みんなで遊ぶジャンボハンモック、ペーゴマ遊び、樹名板づくり、どんぐり工作などなど、「子ども」と「自然」をキーワードに6つ

<2002年度の取り組みからわかったこと 2つのポイント>

A. 全体的な推進への市民参加のあり方

市民参加で、あるテーマについて全体的な推進を行うためには、そのテーマに関連して活動を行う「①活動団体」(〇〇の会、□□グループなど)と、さらにそうした活動団体の推進や市民参加の支援を行う「②支援・推進団体」(●●活動支援センター、■ネットなど)の、両者の参加と協力が必要。①だけではテーマについての個別の活動に集中するため全体的な推進はむずかしく、②だけではテーマについての取り組みがないために、具体的なニーズや活動のビジョンは把握しにくい。

B. 全体的推進のために、各団体やセクターが参加・協力しあうための場づくりの必要性

全体的な推進のために、①②の市民団体や行政、その他セクターが、協働する場づくりが必要。足立区の取り組みのケースでは、「公園まるごとおもちゃ箱」というイベント的な協働の場は、ノウハウや人材の交流による活動団体への支援、一般区民への活動のPR、活動団体と支援・推進団体のつながりづくり、行政と市民の協働など、さまざまな意義と役割を持ち、そうした協働の場の有効性がわかった。

<ファシリテーター・ラーニング・ネットワークとは？>

ERIC では各地の参加型ファシリテーターと学びあい、深めあうためのネットワークを作っています。あなたの実施した研修や授業のプログラム、開発したアクティビティをぜひプログラム提供部までお送りください。レッスンバンクやメールマガジン、ホームページで共有し、お互いの実践から学びあいましょう。

★メールマガジンによるネットワーク

メールマガジンでは、ERIC の各月のファシリテーター派遣の予定を掲載します。ERIC ファシリテーターに研修のご相談などありましたら、ぜひプログラム提供部までご連絡ください。学びあうネットワークをひろげよう！

★ERIC のファシリテーター養成研修「実践編」を共同開催しませんか。

2003 年度は 6 本の柱に加えてファシリテーターと具体的な実践課題について学びあうワークショップを予定しています。今年度は岩手と鳥取のファシリテーターたちと 2 日間の実践編を行う予定ですが、それ以外にも実践編を共催して下さる予定です。あなたの町の課題に迫る研修を開きたいという方、ぜひご連絡ください。

★「ワークショップ・ワークショップ(ワクワク)」開催！

ERIC 事務局のフリー・スペースを活用して、アイデアを出し合い、みんなが元気になる企画を考える「ワークショップ・ワークショップ(略してワクワク！)」を随時開催します。今後の予定は第一回(4月30日)に計画し、ホームページやメールマガジンで随時お知らせします。第一回ファシリテーターは ERIC 理事長の川村三郎さん、運営委員の王曉東さんです。アーティストのお 2 人と、ERIC の新たな展開のアイデアを出し合います。

■ 資料室を一般公開しています。(カリキュラム開発室は資料室に呼称を変更しました)

カリキュラムの開発は、すべての ERIC の活動に深く関わって意識をされているので、有機的に開発されていきますので、全体として捉えています。

資料室にある蔵書などのほか、当センターのファシリテーターや研究員が使用しているリソースを一般の閲覧に提供しています。

国際理解教育・環境教育・人権教育などの様々な分野にわたっています。

総合学習を進める「カリキュラム開発室」として、整備中です。主体的な研究の場にお役立てください。

ジャンル・書名・著者などによる複数検索が可能

・アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなどから集めた英文資料 約 1000 点・日本語文献約 2000 点

・参加型教材関連の図書や教材 ・ERIC の出版物 ・国内外団体の出版物・ニュースレター多数

●閲覧日:月、火、木、金 13時~18時(要予約) 料金:500円(ERIC テキスト・教材のみ閲覧の場合は無料)

■ メールマガジン「ERIC NEWS」を配信しています。

現在不定期ですが(2001 年度は約 20 回配信)メールマガジンを発行しています。電子メールで活動内容などの詳細を、リアルタイムでお届けしています。ご希望の方は、ホームページより「ERIC 電子メールマガジン登録フォーム」をご利用ください。また、E-mail アドレスをお知らせいただければ登録いたします。

(なお、個人情報には厳重に管理されメールマガジン送信以外の目的では使用されません。)

■ この ERIC 通信は無料でお届けしています。(年 2 回)

主催研修予定、新規に開発されたレッスン・バンク、書籍叙法、など年間の ERIC の活動を集約してファイルできます。

お友達で郵送ご希望の方をお知らせください。無料で郵送いたします。

■ ERIC スタッフ募集

事務局では、スタッフ、インターン、アルバイト、ボランティア、ファシリテーターなど、さまざまな形でお手伝いいただける方を募集しています。ERIC の運営に関わりながらいっしょに未来の教育を開いていきませんか。

特定非営利活動法人 国際理解教育センター (ERIC)

〒114-0013 東京都北区東田端 1-14-1 岩瀬ビル

電話:03-3800-9415 FAX:03-3800-9414

Eメール:eric-net@try-net.or.jp

ホームページ:<http://www.try-net.or.jp/~eric-net/>

